

# いちご・牛・人を考え、地域に活力を！ ～さあ！まんぞくする、にないて育成を！～

(課題番号 5)

- ◆活動年次：令和3～令和7年度
- ◆対象：様似町田代地区（42戸）

## 1 課題の背景

- ・地区の農業経営は、夏秋どりいちご、水稻、軽種馬、畜産が主体。
- ・夏秋どりいちごは、就農年数が少ない新規参入者が多く、労働負担の軽減も必要。
- ・畜産部門は、家族経営のため労働力不足が危惧される。
- ・多くの経営部門で後継者が少なく、地域の維持が困難となることが推察される。

## 2 活動の経過

### 夏秋どりのいちごの安定生産

#### ①花房整理作業の実施

- ・いちごの成り疲れ軽減を目的とした花房整理実施の提案の実施。

#### 【提案内容】

- 弱小花房の除去
- 頂花、小花、小果の除去
- 収穫が終わった果硬枝の除去
- 不受精果の除去



花房整理方法の確認

- ・実証ほを設置し、生育調査・品質調査の実施。

#### ②給液管理方法の見直し

- ・排液量の測定時間短縮のため、「R5年版排液測定装置」を作成・改良し、試験運用。

### 畜産経営の安定化

#### ①適正な肥培管理

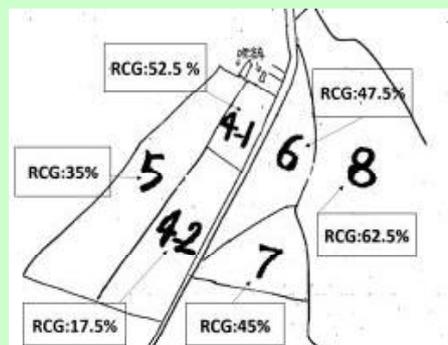
- ・牧草の収量確保を目的に、施肥標準に基づき施肥提案

#### ②適正収穫の実施

- ・1番草の植生調査結果からチモシーより出穂が早いリードカナリーグラス(RCG)割合を農業者に提示。



ほ場別にRCG割合のマップを作成しました（普及指導員）。



RCG割合マップ

### 担い手の確保

#### ①人材確保に向けた改善方法の検討

- ・対象農業者より聞き取りの実施。

#### ②担い手確保に向けた協議

- ・水稻の水管理について労働省力化を提案



農業者より聞き取りの実施

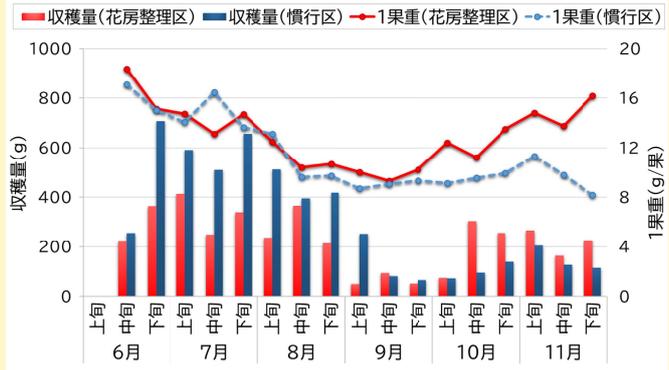
### 3 活動の成果

#### 夏秋どいいちごの安定生産

- ①実証ほでは、前半の収穫量は低下したが、後半は成り疲れから回復し、1果重は約4.0g大きく推移。
- ②排液測定装置の活用で、作業時間が約20%減少。  
※労賃換算：約57千円/年削減



排液測定時間が減り、その分他の労働作業にあてることができる（農業者）。



実証ほの収穫量と1果重の推移(6株/区)

#### 畜産経営の安定化

- ①農業者は施肥標準を参考に、チモシー割合が高いほ場により多くの施肥の実施。

ほ場の植生状況	ほ場面積割合(%)	窒素施肥量(kg/10a)
チモシー5割以上及びマメ科1割以上	50	4.2~6.8
チモシー5割以下	50	2.4~3.0

土づくりの重要性を改めて理解しました（農業者）。

- ②適期収穫が行われ、令和4年と同等の収穫量が確保された。
- ③令和5年に比べ肥料の施肥量を14%削減に繋がった。



#### 担い手の確保

- ①聞き取り調査結果により、今後も農業者は農地を維持・確保の意思の確認。
- ②話し合いの場を持つことで互いの情報共有ができ、将来の地域の在り方の方向性の定着。
- ③農業者や関係機関と協議を重ねたことで、水管理のスマート農業機器の導入及び、共同作業見直しの一助となった。



担い手の高齢化に伴い、労働の省力化につなげたい（農業者）。



労働省力化及び共同作業の見直しの提案

### 4 今後の対応

#### 夏秋どいいちごの安定生産

- ・定植時の株管理改善による根張りの向上及び改善を図る。

#### 畜産経営の安定化

- ・植生に合った肥培管理と出穂期での刈り取りにより栄養価の高い牧草収穫の推進。
- ・栄養価の高い牧草を有効活用して市場価格向上に向けた素牛づくりを推進。

#### 担い手の確保

- ・水管理の労働の省力化の検証及び推進。
- ・地域ビジョンについて、定期的な協議の開催を推進。